

資源回収にご協力をお願いします

市では、次の物を回収しています。その他、インクカートリッジや乾電池、水銀を含む体温計なども回収しています。

植物性の食用油回収

これまで台所などから流され水環境の汚染原因となっていたり、可燃ごみとして処理されたりしていた食用油を、相良庁舎1階環境課または榛原庁舎2階市民課の窓口にて回収し、再利用しています。

なお、飲食店などによる事業活動から出る廃食用油は回収できません。

【油の出し方】

- ①油を冷まし、軽くこす。（賞味期限切れの物は未開封のまま回収します。）
- ②入れ物（ペットボトルなど）に入れ、しっかりとフタ（キャップ）を閉める。



窓口での回収所（相良庁舎）

回収しているもの

▶植物性の食用油（サラダ油）：菜種油、べに花油、ひまわり油、大豆油など▶ごま油▶オリーブオイル など

回収できないもの

▶植物性の食用油であっても水分や天かすの多いもの、香油▶動物性の油（ラード、バターなど ※常温で白く固まっているもの）▶鉱物油（機械油、灯油、軽油など）▶事業活動から出る廃食用油（弁当屋、調理施設、スーパーなどの廃食用油）



市ホームページ

衣類の回収

不要になった衣類を資源物として、相良庁舎1階環境課前または榛原庁舎2階市民ラウンジにて回収しています。回収された衣類は国外で再利用され、ごみの減量や資源の有効活用となります。

【衣類の出し方】

- ①洗濯などをして、出す物をきれいにする。
- ②ビニール袋に入れて、口をしぼる。（紙袋はご遠慮ください）



回収しているもの

▶和・洋服全般（素材問わず、シャツ、制服、ズボンなど）▶タオル類、ハンカチ、スカーフ類 など

回収できないもの

▶油や泥などで汚れや臭いが付いている衣類▶ふとん、毛布などの寝具類▶下着▶くつ、カバン、ぬいぐるみなど



さまざまな回収ボックス（相良庁舎）



市ホームページ

充電式電池（リチウムイオン電池）の回収

回収場所は、相良庁舎1階環境課、榛原庁舎2階市民ラウンジまたはさざんか1階にある乾電池回収ボックスです。また、持ち込みが可能な回収協力店などもありますので、市ホームページをご確認ください。

廃棄する場合は、製品から電池を取り外してお持ち込みください。

また、取り外しができない製品は小型家電として、下記のとおり適切な分別をお願いします。

【分別方法】

- ▶相良地域：環境保全センターへ直接搬入、または金物の収集として出す。（ビニール袋などで小分けにする）
- ▶榛原地域：リサイクルセンターへ直接搬入する。



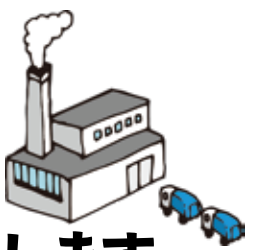
市ホームページ



インクカートリッジや使用済み乾電池の回収ボックス（榛原庁舎）

10月は3R推進月間・食品ロス削減月間です

ごみの分別・減量に協力をお願いします



環境省では循環型社会の構築を目指し、毎年10月を「3R」の取組を強化する「3R推進月間・食品ロス削減月間」としています。「3R」とは、「Reduce（リデュース＝ごみの減量）」、「Reuse（リユース＝再利用）」、「Recycle（リサイクル＝再資源化）」のことをいいます。

市では、この3Rに「Refuse（リフューズ＝使い捨てのものなどを断る）」を加えた「4R」を推進しています。徹底したごみの分別や、減量に関する取組にご協力をお願いします。

問い合わせ 環境課 太田 ☎③2609

市のごみの排出状況

市の1年間のごみ排出量は、12,790トン（榛原地区＝6,559トン、相良地区＝6,231トン）です。市民1人当たりで換算すると、1年間の排出量は302キログラム（1日あたり826グラム）、処理費用は19,428円です。

ごみ処理を行う組合	吉田町	吉田町	吉田町	吉田町
組合構成市町	吉田町	牧之原市（榛原地区）	牧之原市（相良地区）	御前崎市
総排出量	8,701トン	6,559トン	6,231トン	9,328トン
1人1日当たりの排出量	822グラム	813グラム	841グラム	855グラム

出典：令和7年度一般廃棄物処理事業実態調査（令和6年度実績）

「4R」でごみを減らしましょう

市では、ごみを減らすために次の4つの「R」をお願いしています。できることから実践しましょう。

リデュース
Reduce＝減らす

ごみそのものを減らす

- ▶物を使い切る
- ▶詰め替え商品の利用
- ▶賞味期限切れなどによる食品の無駄の防止

リユース
Reuse＝再利用する

繰り返し使う

- ▶まだ使えるものは人に譲る
- ▶市役所の衣類回収の利用
- ▶使い捨てではなく、何度も使える商品を選ぶ

リサイクル
Recycle＝再資源化

ごみを資源に変え再利用

- ▶ごみカレンダーを見て分別
- ▶地域の資源回収の利用
- ▶市役所の植物性食用油回収の利用

リフューズ
Refuse＝断る

不要なものは断る

- ▶マイバッグを持参し、レジ袋は断る
- ▶過剰な包装は断る
- ▶不要なものはもらわない

食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を減らしましょう

食べ残しや売れ残り、賞味期限が近いなど、さまざまな理由で、食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロス量は年間450万トンを超え、このうち半分近くが家庭から出ているといわれています。この食品ロス量を国民1人当たりで計算すると、毎日茶わん1杯分の食料を捨てていることになります。食品ロスを減らすため、できることから行動しましょう。



食品ロスを減らすためにできること

買い物編

- 01 - 買い物前に食材チェック
- 02 - 必要な分だけ買う
- 03 - 期限表示を知って賢く買う

家庭編

- 01 - 適切に保存する
- 02 - 食材を上手に使いきる
- 03 - 食べきれない量を作る

どうしても使い切れない食品はフードドライブを活用しましょう

フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域の子ども食堂や福祉施設、フードバンクなどの生活困窮者支援団体などに寄付する活動。

市では、市役所両庁舎やさざんかに食料回収ボックスを設置していますので、ぜひご協力ください。